

著書紹介

著者自らが新刊を紹介します。

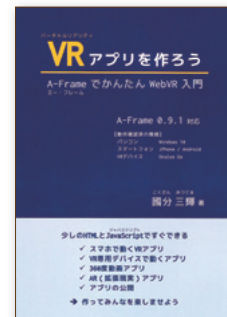
カメハメハ大王 今へとつながる英傑の軌跡 学園長・小林 素文

- ▶ A5判 ▶ 179ページ ▶ 風媒社
- ▶ 本体1,200円+税
- ▶ 2019年5月30日発行
- ▶ ハワイ州憲法にもうたわれている「アロハスピリッツ(見返りを求めない思いやりの精神)」。その源泉を訪ねて、ハワイ王国を築いた実在の王、カメハメハ大王とそれをとりまく人間模様を描く。後半ではゆかりの遺跡、像、景観などを写真で紹介。



VRアプリを作ろう A-FrameでかんたんWebVR入門 人間情報学部・准教授・國分三輝

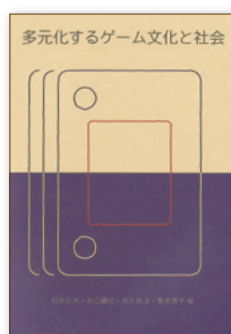
- ▶ A4判 ▶ 102ページ ▶ デザインエッグ社
- ▶ 本体1,389円+税
- ▶ 2019年5月27日発行
- ▶ 話題のVR(バーチャルリアリティ)、体験するだけでなく、自分でアプリを作って楽しむ方法を紹介した。普通のパソコンとスマホを使って、誰でも、無償で、素早くアイデアを形にできる、VR開発のやさしい入門書。AR(拡張現実)や360度動画アプリにも対応。



どうする?どうなる? これからの「国語」教育

創造表現学部・教授・清水 良典(共著)

- ▶ A5判 ▶ 251ページ ▶ 幻戯書房
- ▶ 本体2,000円+税 ▶ 2019年8月10日発行
- ▶ 2022年度から実施される新学習指導要領における「国語」の大改訂が、いま大きな問題になっている。文学教材が消える!?この危機的な「改悪」をめぐって緊急出版された紅野謙介氏ほか12人の問題提起である。文学あるいは国語教育に関心を持つ方に、ぜひ読んでいただきたい。



多元化するゲーム文化と社会

創造表現学部・講師・松井 広志/
創造表現学部・助教・大石 真澄(共編著)

- ▶ A5判 ▶ 360ページ ▶ ニューゲームズオーダー
- ▶ 本体3,000円+税 ▶ 2019年5月25日発行
- ▶ ゲーム文化の現在を社会学やメディア論の視点から捉えた全14章の論文集。「ゲームとユーザー」「実践のなかのゲーム」「ゲームとジェンダー」「ゲーム文化と社会」の4つの部に分けて、多元化するゲーム文化について、それらを取り巻く社会的文脈とともに考察している。



遺跡から「聖地」へ グローバル化を生きる仏教聖地

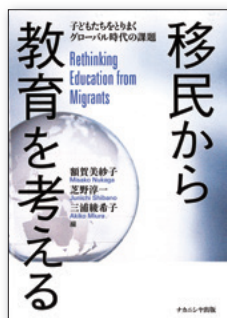
交流文化学部・准教授・前島 訓子

- ▶ A5判 ▶ 311ページ ▶ 法蔵館
- ▶ 本体4,800円+税 ▶ 2018年5月2日発行
- ▶ 本書は仏教最大の聖地でありながら生活者の大半が非仏教徒であるインド・ブッダガヤを舞台に、グローバル化の波と、政治的、経済的、社会的変動に巻き込まれながら、遺跡及びその周辺が「仏教聖地」として再建されていく過程を、現地のフィールド調査をもとに解明したものである。

移民から教育を考える 一子どもたちをとりまく グローバル時代の課題

グローバル・コミュニケーション学部・
助教・金南 咲季(共著)

- ▶ A5判 ▶ 249ページ ▶ ナカニシヤ出版
- ▶ 本体2,300円+税 ▶ 2019年9月30日発行
- ▶ なぜ移民が日本で増えているのか。移民の子どもたちは何に困っているのか。学校や地域はかれらをどのように支えていけばよいのか。これらの疑問に答える、移民の子どもを網羅的かつ体系的に扱った本格的なテキスト。国際交流協会、地域の学習支援教室などを扱った『7章 地域』を担当。



日本の食文化4 魚と肉

教職・司書・学芸員教育センター・
教授・日比野 光敏(共著)

- ▶ A5判 ▶ 233ページ ▶ 吉川弘文館
- ▶ 本体2,700円+税
- ▶ 2019年2月10日発行
- ▶ 日常食や晴れのごちそう、滋養食や供物にいたるまで取り上げて、古くから浸透してきた日本の魚食文化と、明治以降、急速に拡大した肉食文化を掘り下げる。魚食文化のうちのひとつ「寿司」を担当し、その変化について述べている。

